

千葉大学国際高等研究基幹 (IAAR)

2023 年度 研究支援プログラム募集要項

1. 目的

国際高等研究基幹（以下、「IAAR」という。）は、学問の多様性を尊重し、学際領域の開拓並びに新たな価値を創造するイノベーション創出を推進し、社会・経済の発展を妨げる課題を解決するために、当該分野で飛躍的な研究の進展が期待される研究プロジェクトを支援するプログラムを開設した。本プログラムは、千葉大学に所属する研究者が推進する研究を加速・充実させ、優れた研究成果を得るために、大型研究費の獲得や研究拠点の形成を目指すことを目的としている。

2. 概要

本プログラムでは、優れた中堅・若手研究者が推進リーダーとなり、本学の研究の中核となるべく先鋭性（独創性、先端性及び価値創造性）のある研究について、5年間の到達目標を定めて、研究計画を立案する。

【学際的前端研究支援プログラム】

研究活動によって生まれた成果は論文等によって社会に発表され、学理・新学術で世界を牽引することになるが、これら論文の引用数、研究の評価により、外部資金の獲得が実現し、基盤的研究の向上に貢献することが期待されるプロジェクトを支援する。

【社会価値創造研究支援プログラム】

研究活動によって生まれた成果は知財を獲得することで新技術あるいはシステムの開発・実装に繋がるが、これらが後々ライセンス料、共同研究、受託研究等の獲得に繋がることで、研究開発の一層の活発化が実現することが期待されるプロジェクトを支援する。

種別	学際的前端研究支援プログラム	社会価値創造研究支援プログラム
次世代展開型	2件程度 600～800万円程度	2件程度 600～800万円程度

3. 申請要件

推進リーダーは本学に所属する常勤教員とし、原則としてプロジェクト終了時点で63歳以下の者とす。推進リーダー以外の者で、プロジェクトの中核を担う分担研究者を、若干名(1～2名)加えることができる。また、55歳を超える他機関連携研究者や研究協力者(学内教員)が参画することを妨げない。なお、推進リーダーとなる者は他のプロジェクトの分担研究者とはなれない。また、分担研究者は、他のプロジェクトの分担研究者を兼務できない。

4. 申請方法

本プログラムの目的を踏まえ、「学際的前端研究支援プログラム」または「社会価値創造研究支援プログラム」(申請時にいずれかを選択)の計画書を作成し、当該研究推進計画の推進リーダーが取り纏めの上、研究推進部研究推進課(IAAR担当: iaar-office@chiba-u.jp)にWordとPDFの2つのファイル形式でメール添付にて提出すること。

5. 選考方法

IAAR 評価委員会が、書面審査、ヒアリング審査及び合議審査に基づき選考を行い、基幹長が決定する。

なお、審査においては、特に推進リーダーの研究力を重視する。

また、選考にあたっての【評定要素】は、以下のとおり。

(a) 研究課題の学術的重要性・妥当性

- ・学術的に見て、千葉大学で推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。
- ・研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか。

(b) 研究目的、研究方法の妥当性

- ・研究目的が明確であり、その研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。

(c) 研究遂行能力及び研究環境の適切性

- ・これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。
- ・研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。

(d) 研究経費と研究計画との整合性がとれたものとなっているか。(ヒアリング審査段階で評価)

(e) 本研究計画の到達目標の可能性 (ヒアリング審査段階で評価)

詳細は、「千葉大学 IAAR 研究支援プログラム 審査要項」を参照。

6. 申請・審査・採択等のスケジュール

12月9日(金)	学内募集開始
1月10日(火)	申請書一式の提出期限
1月中旬～1月下旬頃	書面審査
2月中旬頃	ヒアリング審査
2月下旬頃	合議審査、採否決定通知

7. 採択件数(予定)

「学際的先端研究支援プログラム」、「社会価値創造研究支援プログラム」の各枠組みにおいて、次世代展開型として各々2件程度、計3～4件程度のプロジェクトを採択する。

8. 計画推進(支援)期間

2023年度～2027年度

- ・プログラム期間は、原則5年間(第4期中期目標・計画期間)とする。5年未満(概ね3年以上)の計画も可とする。
- ・プロジェクトの開始から原則3年目に中間評価を行い、その結果に基づいて、後半の予算配分を決定する。毎年配分額は当該年度の大学の予算により減額の可能性がある。

9. 計画推進のための支援内容・用途等

支援経費 次世代展開型：600～800万円程度

支援経費は、科学研究費補助金の用途に準ずるが、特任教員(研究員)等の雇用や研究者間ネットワーク構築のための取組み等に使用することが望ましい。予算の執行に当たっては、推進リーダーが所属する部局・センター等の担当事務と相談すること。

10. プロジェクト内での教員採用

特任教員(特任准教授、特任講師、特任助教)を雇用する場合には、採択決定後、直ちに、研究計画における雇用計画書をIAARに提出すること。

【留意事項】

- ・特任准教授、特任講師は、将来テニユアトラック教員としてのキャリアパスを想定すること。採用時に科研費の代表者の経験があること。(外国人教員は、その限りではない)

- ・特任助教は、科研費の採択経験は問わないが、博士の学位を持っていること。
- ・雇用期間は、第4期中期目標・計画期間中とし、雇用期間は原則5年間とする。

1.1. 採択されたプログラムの位置づけ

本プログラムに採択された研究グループは、本学の研究戦略に基づいて推進される研究プロジェクトの1つとして千葉大学 IAAR の「次世代展開型」に位置付けられ、千葉大学のビジョンの研究事項の実現と第4期中期目標・計画等への貢献が期待される。

1.2. 本プログラムにおける定義

研究テーマ：プログラムテーマは総花的なものでなく焦点を絞りかつ具体的な提案であること。

研究テーマ名は、先鋭性(独創性、先端性及び価値創造性)が十分に示されていること。

研究グループ：計画を推進する少数の具体的な計画・役割(研究の推進、国内外研究ネットワークの構築等)を主体的に担う研究者等で構成する集団とする。

※研究グループの構成等に制限は設けないが、従来の班研究のような研究グループの集合体を求めるものではないことに留意すること。

推進リーダー：研究推進計画の実施にあたり研究を統括するとともに、計画遂行、研究成果などに主たる責任を負う本学所属研究者。

分担研究者：研究推進計画を実現するために、推進リーダーが編成した研究グループの主要構成員である本学所属研究者。

他機関連携研究者：研究推進計画を実現するために、推進リーダーが編成した研究グループの構成員である他機関所属研究者。

研究協力者：研究推進計画を実現するために、推進リーダーが編成した研究グループの各種活動に参加・協力する教員、大学院生、技術支援員、事務支援員等。

1.3. その他

(1) 本プログラムに採択された場合、最長で5年間は本学の推進研究対象として支援等を受けることとなるため、研究推進リーダーは申請する計画や研究グループの継続性を考慮し、研究プロジェクトの統括、支援研究費の適正な執行を含め、責任を持って統括すること。

(2) IAAR からの求めに応じて、研究進捗の報告や成果報告書作成など、IAAR の活動に協力すること。また、本プログラムは、IAAR による助言等を通して、近い将来における本学(更に我が国)の研究活動の核となり、国内外の研究ネットワークを構築し、大型研究費獲得や研究拠点の形成を目指すことを目的としている。従って、必要に応じて、採択後においても研究進捗の報告や成果報告書等を受けて、研究推進計画の変更等を求める可能性がある。

(3) 本プログラムにおいては2024年度以降、予算に応じて新規プロジェクトを募集する場合がある。